

住宅建築賞

ホールのある住宅（東京都）

設計者 能作文徳＋大野博史＋能作幾代
能作建築設計事務所／オーノJAPAN

建築主 相馬祥三

施工者 広橋工務店

（建物構造：木造）

能作文徳 Fuminori Nosaku

1982年 富山県生まれ
2005年 東京工業大学建築学科卒業
2007年 東京工業大学大学院建築学専攻修士課程修了
2008年 Njiric+Arhitekti 海外研修
2010年 東京工業大学大学院
建築学専攻博士課程単位所得退学
現在 東京工業大学補佐員



このダンスホール付きの住宅は、施主から与えられた計画条件が魅力的である（敷地環境と施設用途）。広い敷地のなかに古い和風庭園と数棟の古家があり、その1棟を建て替えて家族や知人の集会所のような住居をつくるというもので、設計しだいで庭園や古家群も生き返ったはずである。けれどもできあがった建物は、既存の庭園や側面の残地をうまく活かしておらず、古家群にたいする配慮も低かった。設計者はそうしたことよりも、70年代風のスタイルの住宅をつくることを優先したようだ。そのため、70年代の欠陥までも再現してしまった感があり、いわゆる「閉じた住宅」の典型を30年後につくってしまった。とても残念である。

もともと70年代の「閉じた住宅」とは、「窓や開口が閉じているかどうか」といった次元の話ではなく、「おのれのスタイルに閉じこもった」住宅のことであった（具体的には篠原一男や坂本一成の住宅のこと）。そしてなぜそれが問題かといえば、スタイル以外のさまざまな問題が、どうでもよいことになってしまうからであった。この住宅の場合も、既存の和風庭園や古家群のことまで考えようとするならば、この住宅の配置やヴォリューム、あるいは素材や詳細を含めて、ゼロから検討し直すべきところだが、70年代のスタイルがそれを邪魔しているのである。設計者はこうしたスタイルを忘れて、この敷地・この古家群・この設計に正面から取り組んでほしかった。（西沢大良）

